

● フォト部門 審査員総評

緻密な構図で練られている写真が多く、見応えがありました。
今回は、北海道遺産としての美しさから一步踏み込み、物語を感じさせる作品を中心に選出しました。
しかし、選外にも心に響く写真が数多く存在しました。
同一の撮影地では似た構図も見受けられたため、季節や時間帯、視点を変え、未踏の地を探求することで、きっとより独自の表現になるはずです。
この美しい北海道、共に撮り続けていきましょう！



フォトグラファー、美術作家 クスミエリカ氏



準グランプリ

光芒に見惚れる

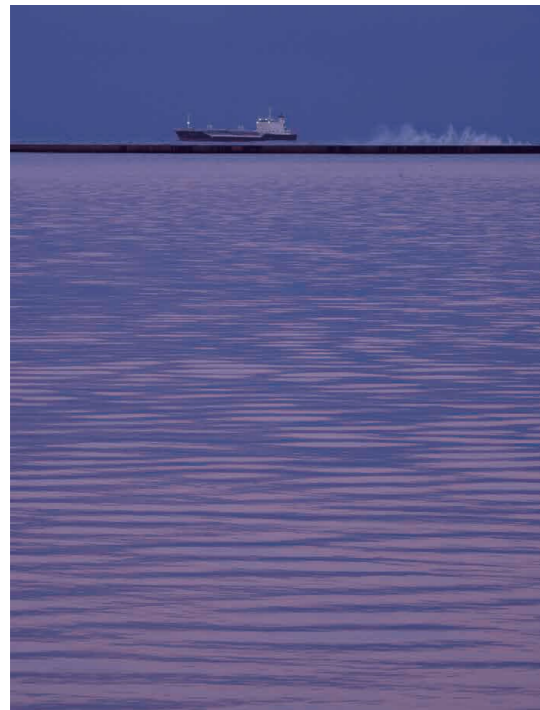
野付半島と打瀬舟
撮影/別海町 野付半島 (2025.2)

倉田 亮一 様

冬の野付半島を訪れました。
陽が傾き始めた頃、雲の隙間から差し込んできた光芒に見惚れていた時、
同じように光芒に見惚れているオスのエゾシカが一頭いました。

【講評】

とてもドラマチックで映画のワンシーンのような美しい画に引き込まれました。
全体にモノトーンのような抑えめの色合いながら、光が暖かくやわらかな階調なこともあり、
何かを予感させるような一枚になっていると感じました。エゾシカも効いていますね。



準グランプリ

港を守り続けて1世紀

小樽みなとと防波堤
撮影/小樽市 小樽港 (2025.11)

奥谷 忠浩 様

波が激しく打ち寄せる日、防波堤に守られた港は
静かに茜色の空を映し出していました。

【講評】

絵画のような不思議で夢のような雰囲気がとても印象的で、
構図の巧みさが活きていると感じました。
一瞬、船が浮かんでいるかのように見える区切りの部分が防波堤で、
そこから海の様子が違っていることに気が付くと
印象が変わって見えるのも面白いです。

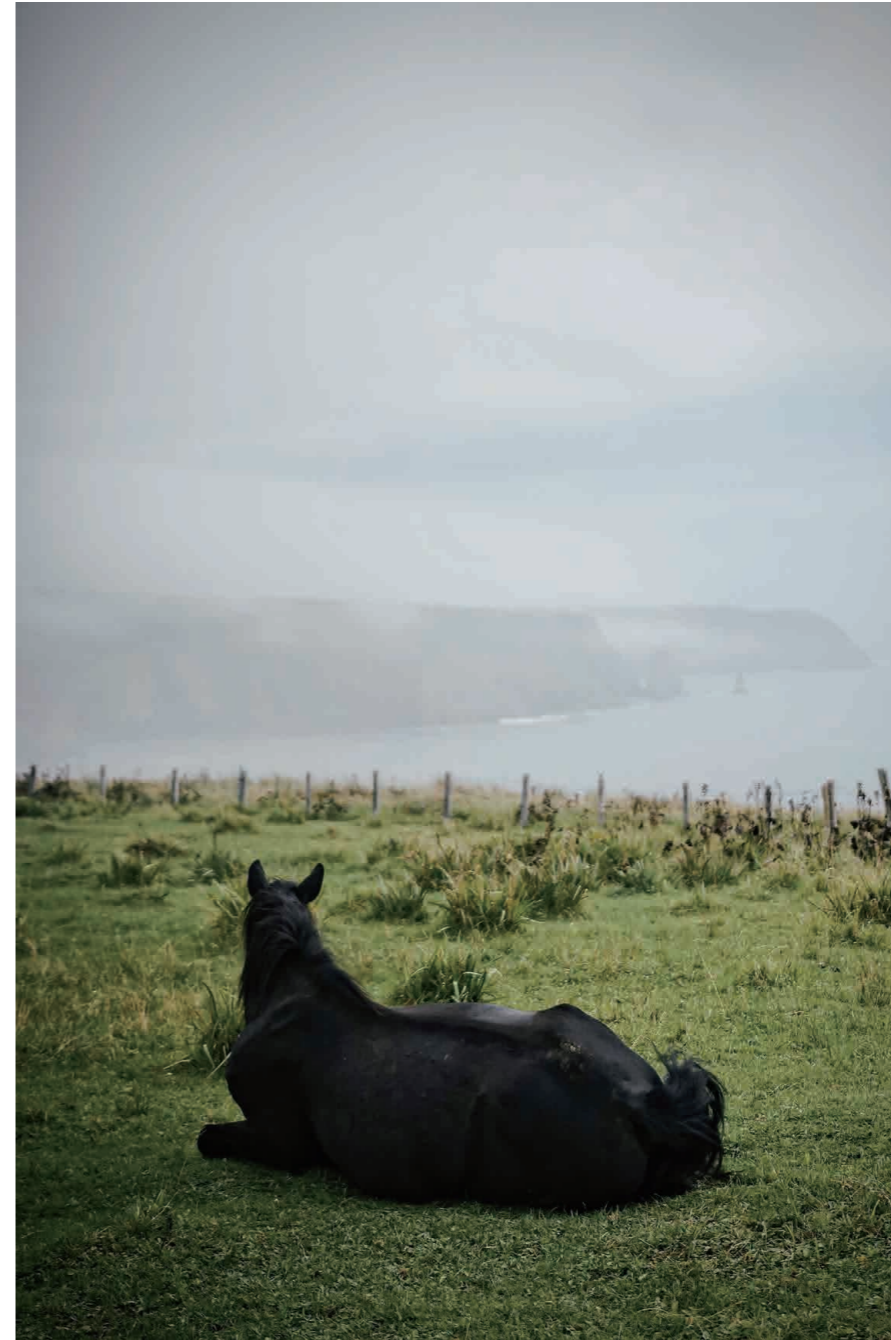


北海道遺産フォト& 短歌チャレンジ 2025-2026

結果公表



● フォト部門



グランプリ

望郷

北海道の馬文化
撮影/厚岸町
原生花園あやめヶ原
(2023.9)

新川 凌央 様

美しい馬の背、霧の切れ間に。

【講評】

とても美しく、ストーリーを感じる写真だと思いました。
霧がかった岬の景色と夏の終わりの空気感、凛とした馬の背中がとても素敵です。
この馬が何を思い、どんな表情でこの景色を見ていたのだろうか、と想像をかき立てられます。



スキートレース

スキーとニセコ連峰 撮影/ニセコ町 五色温泉付近 (2021.1)

穂刈 正昭 様

ニセコモイワ山、山スキーのトレースが綺麗でした。



幾何学の街をゆく

路面電車 撮影/札幌市 (2025.12)

新村 本広 様

横断歩道の幾何学的なラインとそこに進む市電の曲線美が美しく、交差点を横切る一瞬を切り取りました。



凍結と通過

石狩川 撮影/当別町 (2025.1)

前川 忍 様

半分凍結した川面に、季節の逡巡が刻まれる。その上を貫く線路は、時間だけが前へ進むことを静かに示していた。



ひっそりと

北海道の集治監 撮影/帯広市 (2025.2)

川角 晃平 様

いまま緑ヶ丘公園に残る十勝監獄石油庫は、ひっそりと公園内に溶け込んでいます。



松が導く文学館

三浦綾子記念文学館と外国樹種見本林 撮影/旭川市 (2026.1)

鈴木 崇吾 様

喧騒を離れ、四季折々の静かな時間が流れる空間です。



太陽は見てきた 石狩川の刻

石狩川 撮影/石狩市 はまなすの丘公園 (2025.10)

Shunto 様

はまなすの丘公園から望む石狩川流域の夕景。この地で太陽は、開拓以前の原風景から人々の営み、そして現在へと続く長い歴史の刻を見つめ続けてきました。石狩川は北海道開拓の大動脈として、多くの人の暮らしを支え、文化を育んできた存在であると思います。北海道遺産であるこの場所で、太陽とともに刻まれてきた石狩の歴史を、一瞬の光として写真に取めました。この太陽は、石狩川を知る”時の証人”である。



みどりの季節

札幌軟石 撮影/札幌市 石山緑地 (2024.5)

山内 佳子 様

雨が上がりそうな瞬間の石山緑地ネガティブマウンド。晴れた日もいいけれど、この様な天気札幌軟石見学も面白いです。水たまりに季節を入れ込んで撮影しました。



霞の丘陵

宗谷丘陵の周氷河地形 撮影/稚内市 宗谷丘陵 (2025.8)

佐々木 郁太郎 様

夜が明けて沈みゆく月と宗谷丘陵に建つ風力発電の風車群の風景です。丘陵のくぼみに朝霧が出て幻想的な雰囲気になっていました。



還る

旧国鉄札幌線コンクリートアーチ橋梁群

撮影/上土幌町 糠平湖 (2026.2)

廣野 令樹 様

役目を終えたタウシュベツ川橋梁が雄大な自然の力を受けて大地に還りゆく姿を撮影しました。

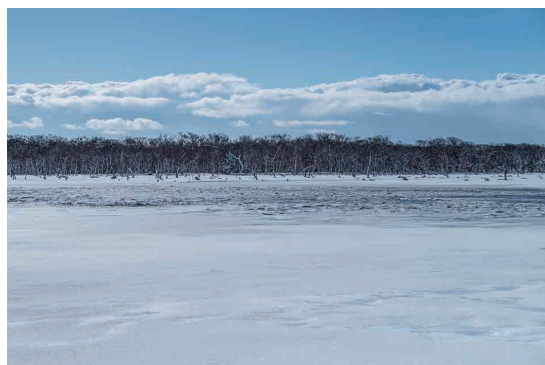


神の道

野付半島と打瀬舟 撮影/標津町 茶志骨 (2026.1)

津山 みづえ 様

春と秋にはシマエビ漁の帆掛け船(打瀬舟)が見られる事で有名な野付湾ですが、冬は凍ってしまいます。そんな湖面を見ていると、氷が重なり山脈の様に続く道が遠くまでできていました。御神渡りでしょうか？ 厳しい寒さの中で見られた神の道は、とても神秘的でした。



冬のナラワラ

野付半島と打瀬舟 撮影/別海町 野付半島 (2025.2)

倉田 亮一 様

初めて訪れた野付半島。冬のナラワラは不思議な光景でした。



湖面に降り注ぐ銀河

摩周湖 撮影/弟子屈町 摩周湖 (2025.6)

畑端 憲行 様

真夜中の摩周湖に銀河が照らされ、いかにも天の川と演出しているようだ。

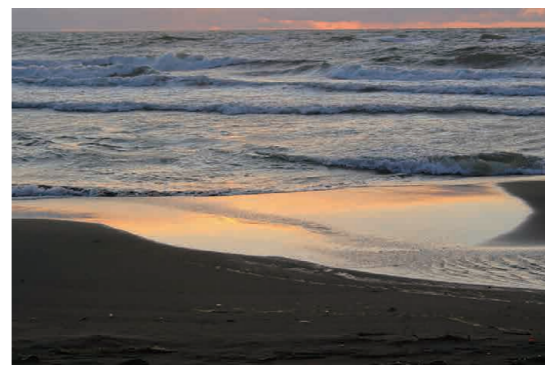


帰る場所へ

サケの文化 撮影/清里町 さくらの滝 (2025.7)

塚原 蓮 様

激流を遡る一尾のサケ。厳しい自然の中でも命を未来へとつなぐ力強さを、水しぶきとともに写し止めました。

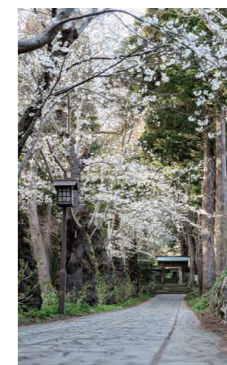


河口の夕暮れ

石狩川 撮影/石狩市 石狩灯台近傍 (2021.4)

穂刈 正昭 様

春の夕暮れ、夕日が映って綺麗でした。



静かに桜

福山(松前)城と寺町 撮影/松前町 松前城 (2024.4)

adnao708 様

武家屋敷周辺の静かに咲く桜がとても綺麗で素敵でした。

グランプリ

金棒を引きずりながら赤鬼が
描く魔法陣きみにあいたい

空木洞様

(題材／登別温泉地獄谷)

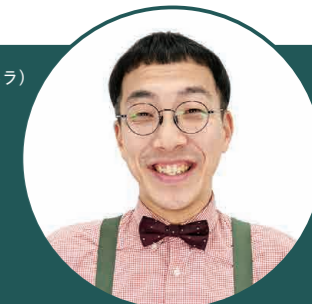
【作者コメント】

地獄谷に多くあった鬼と金棒のモチーフに着想を得ました。

【講評】

たしかに登別温泉の鬼は赤鬼で、しかも金棒を引きずるように持っているな。
という共感と、そこからの最後の七音のきみにあいたいへの飛躍が予想できずにごいと思いました。
きみにあいたいをひらがなにした訳は作者さんに聞いてみたいです。

お笑い芸人・歌人 岡本 雄矢氏 (スキンヘッドカメラ)



● 短歌部門 審査員総評

600を超える予想以上の多さの短歌ありがとうございます。楽しく読ませていただきました。
僕は自分だけの歌を歌えている方を優先的に取りましたが、
他の人が選ぶとまた別の結果になると思います。
これを機にまた短歌、そして北海道遺産にも興味が続くことを願っています。

準グランプリ

七月の終わりでも歯が合わぬ地で
ずっと夕焼ばかり見ていた

伊都様

(題材／霧多布湿原)

【作者コメント】

北海道を旅した時一番寒かったです。

【講評】

一枚の写真のような、韻律もとてもいい綺麗な一首だと思いました。
霧多布の寒さが歌からにじみ出てきているようです。
感情を歌っていないので、読む人が想像できるのもいいと思いました。

【作者コメント】

昔家族でガリンコ号に乗りました。
真っ白な流水たちを割りながら進む姿に、まだ知らない世界が切り開かれて
いるような感覚になったのを思い出しました。

【講評】

地球のどのへんだろう？ではなくて地球儀のどのへんだろう？
というのがおもしろいと思いました。
ガリガリやゴリゴリではなくガリゴリという音選びもとてもいいと思
いました。

「地球儀のどのへんだろう」
ガリゴリと流水削り進む僕は

仲川 暁実様

(題材／流水とガリンコ号)

キタキツネ目と目が合えば旅の果て
この静けさが答えだったと

ルカーノ様 (題材/小樽の鉄道遺産)

【作者コメント】
北海道の自然と「人の内面の旅」を重ね合わせた詩的表現。

雪が海へ消えゆくように
対岸の灯へと溶け行く貨物船の灯

DAZZA様 (題材/函館西部地区の街並み)

【作者コメント】
七重浜から見た対岸の赤レンガ倉庫の美しさを思い出しました。

学び舎で幾度も歌ったこの川は
今も家の近くを流れる

田島ぶくま様 (題材/石狩川)

【作者コメント】
小さな頃、校歌の歌詞としてなんとなく歌っていた「石狩川」。大人になってからその存在を、風景としてのありがたさを強く感じるようになりました。

ケンケンパツ七十本の円柱の
影をケンケン防波堤ドーム

井ノ口皓様 (題材/稚内港北防波堤ドーム)

【作者コメント】
長い脚と跳躍力を持っていなければ出来ないけれど、ケンケンパツで飛んで行ったら面白いと影を見て思いました。

カーナビに映る地名をどや顔で
内地の人に披露する声

小田早紀様 (題材/アイヌ語地名)

【作者コメント】
本州から友達に来て、北海道の地名が読めると「すごい」と言われるので、ついつい自慢げに読んでしまいます。当て字でアイヌ語由来の地名であることが誇りと同時に、これからも残していきたいです。

星型に守れなかった夢があり
春の桜はそれを責めない

本田彩華様 (題材/五稜郭と箱館戦争の遺構)

【作者コメント】
日野出身で新選組に親しみのある立場から、五稜郭を勝敗ではなく「志が残した痕跡」として捉えた。守りきれなかった理想を、春の桜が裁かずに包み込む情景を通して、歴史との静かな向き合い方を表現している。

君がいた路面電車の通学路
時が止まって春動き出す

ミタヤヨイ様 (題材/路面電車)

【作者コメント】
函館の路面電車が懐かしいです。

暗い道下へ下へと掘り進み
上へ上へと灯火運ぶ

武田まゆ様 (題材/空知の炭鉱関連施設と生活文化)

【作者コメント】
小学生の時に社会科見学で石炭の歴史村に行き、エレベーターで地下の坑道に向かった時を思い出して詠みました。

ウイスキーでグラス満たして
そこでしか釣れぬ大きなさかなが泳ぐ

大泉力也様 (題材/ニッカウキスキー北海道余市蒸溜所)

【作者コメント】
ニッカウイスキーにしかない雰囲気や味わいがあることを表現した。

モール湯のハンドクリーム携えて
蕎麦屋ののれんくぐる先輩

優しさの詰まったお土産様 (題材/モール温泉)

【作者コメント】
蕎麦屋の祖母は手が荒れがちです。先輩が祖母を気遣って、モール温泉のハンドクリームを届けてくれました。常連客の優しさを、天然の化粧水の温かみで表現できたらと思ひ応募しました。

あの頃と同じ季節の道ばたで
変わらずに咲く千島桜よ

やーくん様 (題材/千島桜)

【作者コメント】
千島桜は今も昔も美しい花が咲きます。

次にいつ会えるかわからない人と
汁まで啜るラーメンだった

貴田雄介様 (題材/北海道のラーメン)

【作者コメント】
遠距離恋愛をしていた頃の事を思い出しました。

「したっけね」路面電車の後ろから
ずっと見えてる母に手を振る

崎本ミナト様 (題材/路面電車)

【作者コメント】
母と別れるときの切なさを表現しました。見えているとずっと手を振りたくくなります。

路面電車軌道を行く街の音
朝日浴びつつ日常刻みぬ

八巻孝之様 (題材/路面電車)

【作者コメント】
路面電車が日常の風景と街の息づきをつなぐ様子を表現しました。

馬たちの暮らす余生に幸あれと
愛し見守る日高牧場

渡辺秀夫様 (題材/北海道の馬文化)

【作者コメント】
馬が生まれ、育て、帰省ごの幸を願う、そんな牧場の心を詠みました。